医師紹介

－より良い　膝関節治療を目指して－



整形外科
副院長　近藤 誠 医師

謹んで新年のお慶びを申し上げます。
昨年７月、就任しました整形外科の近藤です。私は 20 数年来、アメリカやドイツの医師たちと共に“より良い人工膝関節の研究・開発”、“より正確な膝関節手術手技の確立”、“経験の浅い医師への教育”に取り組んでまいりました。この経験を生かし、当院でも中高年の膝関節疾患の治療に取り組んでいく所存であります。

この数年は高齢化社会到来により、ご高齢の患者様が増加しております。高齢化に伴い、種々の病気が起こることで日常生活に弊害が生じ、要支援・要介護となる方が多くいらっしゃいます。その原因疾患は、脳血管疾患（脳卒中）18%、認知症 16%、高齢による衰弱 13%、骨折・転倒 12%、関節疾患 11%（厚生労働省平成 25 年国民生活基礎調査より）であり、整形外科疾患が約４分の１を占めております。65 歳以上の女性の３人に１人は関節痛に悩まされていると言われていますが、当院を受診される患者様にも膝関節痛を訴える方は非常に多く、加齢による変形性膝関節症いわゆる年齢を重ねるにつれて軟骨がすり減り、骨まで傷んだ状態となっています。今や健康維持のための情報は世に氾濫していますが、間違ったものも多くありますので変形性膝関節症を可能な限り進行させないために正しくお伝えしていきたいと考えています。

また当院はその病院名の示すごとく“リハビリテーション”が充実しておりますので理学療法士と共に可能な限りの保存的治療（手術以外の治療）を試み、どうしても日常生活に支障をきたすようであれば手術も視野に入れて治療させて頂きたいと思います。

ここで私のライフワークである人工関節の手術について少しお話させて頂きます。人工関節手術とは痛みの原因であるすり減った軟骨と傷んだ骨の表面を切除して、金属、セラミック、ポリエチレン等でできた人工の関節に置き換える手術です。肩関節や肘関節にもおこなわれていますが、歩行時に体重のかかる関節（股関節、膝関節等）で多くおこなわれています。特に膝関節は毎年 10% 以上の伸びを示し、10 年間で約 2 倍と人工関節手術の中では最も多くおこなわれるようになりました。その理由は耐久性および手術手技の改善により 10 年、20 年の長期成績が向上したためです。とは言え“神様”を超えるものができている訳ではなく、私ども開発チームは現在も更なる改良を続けております。今年、当院では世界に先駆けて皆様に“進化した新しい人工関節”を提供する予定です。どうぞご期待ください。なお両膝ともに痛みが強く日常動作に支障のある方は１回の手術で両膝の手術を行うことも可能です。入院期間も片膝のみの方と大差なく約３～４週間であり、退院後は日常生活がリハビリに繋がりますので通院によるリハビリは不要です。

“シニアライフを楽しむために不可欠なのは？”と言う調査（科研製薬株式会社・生化学工業株式会社より）では健康が第１位となっており、その一助になりたいと考えております。

Naming ギャラリー名決定！

当院増築に伴い、南館と西館をつなぐ渡り廊下の壁面にギャラリースペースを設けました。地域の皆様のコミュニティの場となればと言う想いを込めて、院内で名称の公募を行い、多くの候補の中から選ばれた・・・

ひまわり通り

に決定しました！！





ゆめ工房たけ画伯のひまわりを描いた絵画を飾らせて頂いている事と、太陽に向かって力強く成長していくひまわりのような前向きな気持ちになって頂けるよう【ひまわり通り】となりました。

貴志川赤十字奉仕団（大原貴美委員長）主催の研修会に当院理学療法士が参加



理学療法士
村上 智子

貴志川赤十字奉仕団（大原貴美委員長）は、紀の川市貴志川町の生涯学習センターで研修会を開いた。

研修会は、団員の意思統一などを目的とし、年に２回実施。今回が今年２回目の研修会で、団員約１００人が参加した。会では、社会医療法人三車会貴志川リハビリテーション病院の理学療法士・村上智子さんが講演した。

村上さんは、健やかに年齢を重ねていくために、女性の健康と理学療法士の関わりを説明。健康とは、肉体や精神、社会的に全てが満たされた状態にあるとしつつ、月経や妊娠といった生物学的側面と恋愛や結婚などの心理社会的側面の２つの側面も紹介。これらを合わせて「女性の健康」であると話した。

また、日本で女性の健康の分野を担っている職種として医師や助産師の存在を挙げ、「身体機能のプロフェッショナルとされている理学療法士も今後、この分野で重要とされている」と力説した。

和歌山新報掲載記事より抜粋

リハビリテーション看護の実践

「看護は出会った時から始まる」　つなぐケアをめざして！



看護部統括
大久保　まさ子

リハビリテーション看護は、心身の障害によって引き起こされた生活のしにくさに対して援助し、やがて患者や家族が生活の再構築をできるよう支援する。そして、最終的には生活の質向上に寄与することをめざします。

貴志川リハビリテーション病院看護部は、看護師・ケアアシスタントを含め現在 106 名が在籍しています。看護部の Credo（クレド）は、私達と出会えて「大切にされた」と思って頂けるケアを提供することです。優しさだけでなく、その人の生活を支えるケアを目標にしています。外来から入院、そして退院し在宅へとスムーズに移行できるよう、出会ったその時から生活者として自立への援助を実践しています。

現状より、外来は地域・家庭との窓口です。疾患と共に在宅生活を維持するための支援として、外来総合相談窓口に看護師を配置しています。担当看護師は患者サポートセンターの各専門職種と情報を共有します。これは、介護保険等の利用や退院を見据えた関わりの１つです。

病棟では、入院時に現状と受傷前の日常生活動作を必ずチェックします。以前の状態に少しでも近づけるように、自分で出来る事は、自分で。出来ない事は、援助する。出来る可能性のある事は、待つ。これらは、自分らしく生きていくことを支援する看護そのものの機能であり、患者様の最も身近にいる病棟看護師が中心となって行うチームアプローチです。

そして、PFM（Patient Flow Management）の退院調整・支援看護師との連携は、在宅サポーター（ケアマネジャー等）とのケアの継続と調整を目的にしています。

私達は、24 時間 365 日、患者様に寄り添う看護をめざします。そのための人材育成は非常に重要です。特に新人の看護師には、１年かけてオリエンテーション教育を実施し、プリセプターの支援のもと看護の基本を修得します。仕事と育児の両立・ワークライフバランスにも取り組み、「大切にされている」とお互いが思えるような関係を、今後も継続していきたいと思います。

「チーム貴志川」切れ目のない看護の実践と皆様との御縁を大切にし、努力してまいります。

看護実践の紹介



貴志川リハビリテーション病院　外来診察担当医表

平成 28 年 1 月 1 日現在

診察時間	診療項目	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前診療 9 時～ 受付時間 6 時～ 12 時	整形外科	殿尾（装具診）	近藤	戸堂	尾川	殿尾（装具診）	担当医☆（交代制）
	脳神経外科	西林 10 時～ 11 時 30 分	——	兵谷	中谷	——	担当医☆（交代制）
	内科	——	豊田	——	——	田畑	——
	リハビリテーション科	——	——	荒川	——	——	——
	血管外科	——	関井	——	——	——	——
午後 予約診療 13 時～ 16 時	整形外科 予約診察	近藤（膝専門外来）	休診	——	近藤（膝専門外来）	——	休診
午後診療 17 時～ 受付時間 15 時～ 19 時	一般整形外科	——		——	臨時手術日	殿尾 / 生田	
	スポーツ整形 小児整形	殿尾＊		——		——	
	脳神経外科	——		——		担当医	
	リハビリテーション科	——		荒川		——	
	内科	——		——		中村	

終日手術日

＊月曜日の午後の殿尾院長の診察は、スポーツ整形・小児整形のみの診察になります。
☆土曜日の整形外科・脳神経外科は、交代制になります。

リハビリテーション

診察時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前 9 時～ 12 時	○	○	○	○	○	—
午後 17 時 30 分～ 19 時	○	—	—	—	○	—

★リハビリテーションをご希望の方は、整形外科・リハビリテーション科を受診して下さい。
医師が必要と判断した場合に行うことになります。

2 月からの診察時間等の変更案内

受付時間等を**変更**させていただきます。詳しくは、病院までお問い合わせ下さい。



アクセス



公共交通機関でお越しになられる方

- JR 和歌山線船戸駅よりタクシーで 5 分 (徒歩約 20 分)
- 紀の川コミュニティバス「丸栖北」下車すぐ
- 紀の川市地域巡回バス「巡回丸栖北」下車すぐ

社会医療法人　三車会
貴志川リハビリテーション病院
〒640-0401　和歌山県紀の川市貴志川町丸栖 1423-3
TEL　0736-64-0061 ／ FAX 0736-64-0063
〔HP〕 http://www.mikurumakai.or.jp

お知らせ

災害対策

災害医療対策における院内の取り組みについて

診療支援課　課長　嶋　康伸

当院は、2013 年 3 月に災害支援病院の認定を受けました。衛星電話・無線機による非常時の連絡体制を構築し、地域において保健所をはじめ、岩出市・紀の川市・那賀消防等自治体関係者・医師会・各医療機関の関係者で那賀地域災害医療対策会議に参加し、当院副院長が災害コーディネーターに指名され、公立那賀病院 (災害拠点病院) と共に、災害医療の一端を担うことになりました。
また、和歌山県においても 2015 年 12 月に日本赤十字社和歌山医療センターにて、和歌山県災害医療従事者研修に約 40 もの医療機関等が集まり、広域災害医療の机上訓練並びに協議を行いました。
昨年 8 月、水没の危険性があった高圧電源装置の移転や救急部門の非常電源の確保を行う為、病院南側に増築棟を建設し、屋上に設置致しました。
これからも、災害時においても患者様が安心して医療を受ける体制に向けて邁進してまいります。
現在、院内においても災害対策会議に関井医師をはじめ、看護部 2 名、診療技術部 1 名、リハビリテーション部 1 名、事務部 2 名がチームとなり『患者様の安心・地域住民への貢献を』を軸に日々切磋琢磨しています。
患者様の為に、地域の為にある病院をこれからも目指してまいります。

2016 年 1 月発行 / 広報誌みくるま通信　Vol.7　冬号

社会医療法人　三車会
貴志川リハビリテーション病院 広報誌

2016 冬号 Vol.7 みくるま通信

掲載内容

・年頭のご挨拶
・医師紹介
- より良い膝関節治療を目指して -
整形外科　近藤 誠　副院長
・ギャラリー紹介
南館通路の名称のご紹介
・新聞掲載情報
わかやま新報に掲載されました
・看護部
リハビリテーション看護の実践
・お知らせ
災害医療対策の取り組みについて

年頭のご挨拶



理事長・病院長　殿尾 守弘

新年明けましておめでとうございます。
現在、超高齢化社会を迎える中、政府は増える社会医療費の削減、適正化に向けて病院の病床数の削減と病床機能分化及び地域包括ケアシステムの構築を積極的に進めています。
この流れの中で、当院では、県下最大級のリハビリテーション施設を整え、また在宅医療・介護中心の「赤ひげクリニック」を併設致しました。より一層、地域住民の方々に認めて頂ける医療・介護運営システムを現実化することが早急の課題であります。
その実現のために、間がぬけた「**猿知恵**」を捨てて、人の「**猿真似**」をせず、素直に「**猿の木のぼり**」の教えを受け、万が一にも「**猿も木から落ちる**」ことなく、この一年を頑張ろうと決意しております。この地域で必要とされる医療機関になることを目指します。
益々のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い致します。

Photo: 和歌山県植物公園 緑化センター